

クランクベイトの自作6 - おもり -

1 はじめに

前回は、ワイヤーフレーム(ラインアイとフックアイ)の作製でした。今回は、おもりについてです。

おもりは、直径6mmの鉛球と直径6mmの鉄球です。試作を繰り返した結果、今回、作製したブランクには、この2個のおもりでちょうどよい重さになりました。

2 おもりに使う材料

試作品を繰り返し作ってきました。初めはガン玉とジンタンをおもりにしていました。それぞれの重さ・大きさは次の通りです。(重さはネットからの転載です。)

	重さ	大きさ(単位mm)
ガン玉 2B	0.75g	ガン玉2B
ガン玉 B	0.55g	ジンタンG1
ジンタン G1	0.40g	
ジンタン G2	0.31g	

繰り返して作ってきた試作品では、ガン玉やジンタンを3つ使っていました。おもり2つで収まるものはないかと探していたところ、直径6mmのスチール球(鉄球)を見つけました。自転車のベアリング用ボールのようでした。関連して探していると、スチール球(鉄球)5mm、鉛球6mmも見つかりました。価格、重さは次の通りです。

鉄球 5mm	200個	¥899	
鉄球 6mm	200個	¥599	
鉛球 6mm	200個	¥1,287	/合計 ¥2,785
(アマゾンで購入 ¥2,000 以上で送料無料)			

スチール球	1mm	0.004g	
	2mm	0.033g	
	3mm	0.110g	
	4mm	0.26g	
	5mm	0.51g	
	6mm	0.88g	(ネットからの転載です。)

実際に測定しました。200個を袋ごとキッチンスケールで測りました。

鉄球 5mm	200個	103g	1個あたり 0.52g
鉄球 6mm	200個	180g	1個あたり 0.90g
鉛球 6mm	200個	258g	1個あたり 1.29g

3 おもりの位置

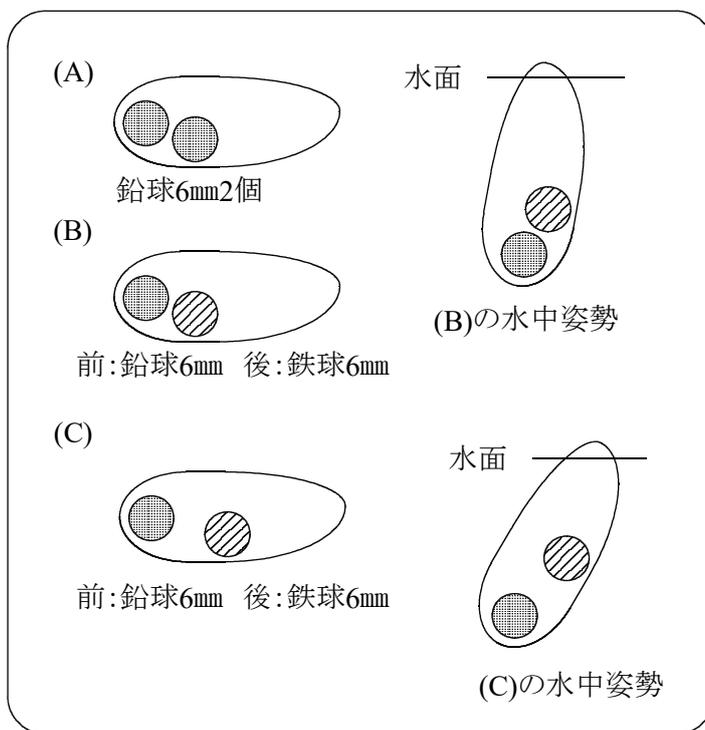
自分の釣り方にあったスローシンキングのクランクベイトは水中での姿勢がほぼ垂直でした。水中での姿勢をほぼ垂直にするためにおもりの位置を図(A)(B)のようにして試作品を作りました。すると、図(A)はほぼ垂直の姿勢で水中に沈んでいきました。図(B)の場合は、姿勢がほぼ図(A)と同じでしたが、テール

がほんのわずか水から出る形で浮いていました。

(B)には、フックアイにスプリットリング2個、フック、チューニングシンカー(直径4mm 0.06g)を付けると、ゆっくり沈んでいきました。チューニングシンカー(直径4mm 0.06g)を付ければ、スローシンキングに、外せば、スローフローティングとなりました。

もう少し、水中姿勢を倒したいと考え、おもりの位置を図(C)のようにしたところ、思い通りの水中姿勢となりました。

なお、図(A)のようにおもりを付ければ、ボトム用のルアーになります。水中姿勢が垂直でフックアイが上にあるため、マスが上から喰ってきたときにはハリ掛かりしやすいし、根掛かり防止にもなります。



<チューニングシンカーの重さ>

SMITH 厚み0.4mm

直径4mm 0.06g

直径5mm 0.09g

直径6mm 0.12g

直径7mm 0.17g

(ネットからの転載です)

4 おもりの位置の粘土を取り除く

おもりを軽量粘土に埋め込むとき、おもりを沈めた分、粘土があふれ出ます。埋め込むべき位置に粘土があると、おもりの位置がずれることもあります。これを防ぐために、おもりの位置にある粘土を取り除く方法が必要です。

(1) 方法1 直径6mmの半球を押しつける

透明フィルムに直径6mmの半球を貼り付け、おもりの位置に、この半球を押しつけます。これにより、そこにあった粘土は外にあふれ出ます。あふれ出た粘土を取り除きます。

<直径6mmの半球の作り方>

(ア) 牛乳パックで小さな箱を作ります。その中に軽量粘土を詰めます。

軽量粘土は百円ショップ「ダイソー」で購入しました。ブランク(ルアーの本体)もこの粘土で作ります。



- (イ) 軽量粘土に直径6mmの鉄球を半分埋めます。乾燥させます。

鉄球を軽量粘土に埋めると、軽量粘土の水分でさびてしまうので、さびを防ぐため、サラダ油を塗っておきました。



- (ウ) 軽量粘土が乾燥したら、鉄球を取り出し、爪マニキュアのトップコート塗ります。

トップコートが乾燥したら型のできあがりです。

爪マニキュアのトップコートは百円ショップで購入しました。

鉄球にサラダ油を塗っておきましたが、量が少なかったためか、それでもさびが付いてしまいました。

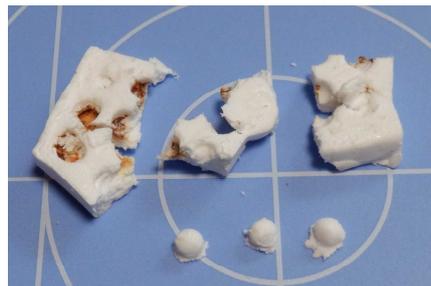


- (エ) 型に軽量粘土を詰めて乾燥させます。



- (オ) できあがった半球を取り出します。

軽量粘土が乾燥したら、型を壊しながら半球を取り出します。(型を壊さずに取り出すことができませんでした。) これに爪マニキュアのトップコート塗ります。これで半球が完成です。残念ながら、きれいな半球はできませんでしたが、粘土をおもりの位置を決めるには十分です。



(カ) できあがった半球を透明なフィルムに、2液を混合して使う強力接着剤で接着します。

今回使用した透明フィルムは湿布薬に付いていた固めのフィルムです。透明なクリアフィルムを利用してもいいと思います。



(2) 方法2 道具の代わりに耳かきで

6mmの半球のかわりに、耳かきでおもりの位置の粘土を取り除くという方法もあります。

5 終わりに

購入したスチール球は、ステンレス球と思っていたので、さびが出たときには驚きました。改めて、購入明細を見たところ、スチール球とありました。つまり、鉄球でした。軽量粘土の水分でさびるわけです。

鉛球はまん丸ではありませんでした。歪みがありました。おもりにする分には影響ありません。

自作したブランクでは、鉛球6mm2個でシンキングに、鉛球6mmと鉄球6mmでスローフローティングに、これに0.06gシンカーを付けるとスローシンキングとなりました。偶然ですが、とても理想的になりました。

次回は、ブランクの作製についてです。